

可児市

里山クラブ可児

里地生態系保全支援事業

里山再生モデル確立へ

可児市久々利の「我田の森」をフィールドに、間伐や植林、山道整備など人間と森林が共存できる里山作りに取り組んでいる「里山クラブ可児」。昨年からは県の「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、耕作放棄された棚田で「田んぼビオトープ」プロジェクトを始動させた。鷺見鎮代表(69)「同市土田」は「子どものころに見た自然の風景を孫の世代に」と、熱い思いを胸に会員たちと精力的に作業に励む。

ビオトープ計画

ビオトープは、次世代に豊かな自然や生物の多様性を伝えようと、昨年からの4か



「子どものころに見た自然の風景を孫の世代に」と里山保護活動に力を入れる鷺見鎮代表=可児市久々利

年計画で始めた。人の背丈を超す草が生い茂り、やぶ化していた約3千平方メートルの棚田の伐採作業から取り掛かり、水路や水源を調査。本年度は水路の護岸整備を実施している。

護岸には大人の手のひらほどの大きさの岩を丁寧敷き詰め、ステンレス製の網で覆う。小さな隙間を作り、水生生物の生息地を確保するためだ。手間のかかる地道な作業で会員らの額には大粒の汗が浮かんでいる。

来年度にはいよいよ水を引き入れて棚田の再生を図る。目指しているのは常時満水(たんすい)の池で、イトミミズ

を育てて無肥料、無農薬の稲作りをする予定だ。「もちろん、米作りが目的ではない。そこにはメダカやフナ、ヤゴ、トンボ、ホタル…それに、それらを餌とする鳥もいるだろう。その姿こそ、子どもたちに実感してもらいたい、市民の憩いの場」と語る。

守りつつ生かす

同クラブが保全活動を進めるこの「我田の森」は7月、活動実績が認められて県の「環境保全モデル林」にも選定された。この森で、関係団体らとともに里山再生手法の

モデルを確立させるため、会員たちは並々ならぬ意欲を見せている。

このプロジェクトのほかにもアカマツ林の整備や、市民向けの炭焼き体験、ジネンジョ掘りなど里山講座を実施し、里山に人を呼び込もうと努力を重ねる。「昔は人が自然資源を活用することで結果的に環境を守っていたが、今は人間が手を入れない」と鷺見代表。「守りながら、生かす」。そんな里山を取り戻したい。我田の森は今後、一層の活力が満ちてくるだろう。



耕作放棄された棚田で「田んぼビオトープ」作りに汗を流す会員=同

清流の国ぎふ森林・環境税を活用した事業の紹介【5】

里地生態系保全支援事業

～生物多様性・水環境の保全～

耕作放棄による農地の荒廃や外来種の侵入などにより近年崩れつつある里地(田んぼや水路、ため池など)の生態系の保全を図るため、モデル的な取り組みを進めています。

<平成24年度の取り組み>

(団体事業)実施団体:4団体 実施内容:希少生物の保護、ビオトープの整備など

(市町村事業)実施市町:各務原市、瑞穂市、笠松町、輪之内町

実施内容:スクミリンゴガイ(通称:ジャンボタニシ)の駆除12.6t

(県事業)実施内容:5箇所の農業用ため池でブラックバス等外来種の駆除6万匹

<平成25年度の取り組み> 5団体、6市町、農業用ため池5箇所を実施



希少生物(ウシモツゴ)の放流



外来種捕獲状況